

人の顔色を伺ったり、  
 気を使い過ぎる性格の為か、  
 自分の思ったことを  
 ハッキリ言えません。  
 どう接したらいいのでしょうか？



## 教えて先生!!

ママの悩み



6歳の長男がいます。小さい頃から人の顔色を伺ったり、気を使い過ぎる性格の為か、自分の思ったことをハッキリ言えません。友達にもそうですし、大人(親に対しても)でもそうです。最近では元気がないようにも見えます。どうやって接していいのかわからない時があります。来年は小学生だし、とても不安です。

来春小学校に入学するお子さんが「人の顔色をみる、気を使い過ぎる、思ったことをハッキリ言えない。こんな性格でどうなるかしら」と、お悩みなんですね。

「質問から少しずれるかも知れませんが、最近保育者たちの集まりの中で、家庭で親の顔色を伺い、気を使いながら良い子を演じ、保育園に来て、そのストレスを発散し、トラブルを起こす子どもの増えていることが話題の一つになっています。

私たち保育士は、子どもにとって心開ける存在になり、素直に喜び、怒り、悲しみ、楽しい等の気持を表して欲しいと願っています。

表したい気持ちを心の奥に押し込めてしまふ緊張が続くとストレスがたまり、それを乱暴な行動で発散したり、逆に「世の中こんなもの」と無気力になったり、又昨今話題の思春期になって「今までの私は嘘だー」と爆発することもないとは言

えません。

でもママの心配なさっているお子さんの性格(神経質、気にし過ぎる、引っ込み思案等)は、どちらかという親の性格を受け継ぐといわれていますが如何ですか。パパ似つそれともママ似つどちらにも似ていないのでしょうか。性格は「そっくりね」と言われる生まれつきの部分もあれば、生まれてから今日の育ちまでの日々刻々の営みの中での、さまざまに変わり環境によって作られる部分の両面があり、あるいは、何かのきっかけで大きく変化することもあります。

初めのお子さんの場合、親が神経質に、あるいは過保護的に育てると、心配のような性格に育つことがあります。二番目の子どもの場合、少し手抜き子育てになると、たくましい性格になる等と言われますから、育て方によっても変わってきます。よくテキパキしたママからのんびりや、或いはべすと親をいらだたせる子どもが育つ等と言つのは、子どものしていることが待てず文句を言いながらママが先にやってしまつて、子どもが学習する機会を失つからでしょう。

「親にも、友だちにもはっきりものが言えないと入学しても友だちが出来ず、もしかすると登校拒否等」といふことになったら」と不安になるお気持ちもよく解ります。

でもママ、あなたの性格の中で直したと思うことが直せましたか？

実は性格というのは簡単には変わり難い面が多いのです。ですから「気が小さい」「人に気を使い過ぎる」「はっきりしない」等、マイナス面ばかり気にせず、逆に「デリケートで感じ易い」「キメ細かくやさしい」等、プラス的に捉えて、これもお子さんの個性と受け止めながら「あなたのそんなところがママ好きよ」と認め、お子さんに自信を持たせ、少しでも自分の意志を素直に表したときはママの喜びの気持ちを少々オーバーに(例えば抱きしめる、頬ずりする等)伝えるようにすると少しずつ変化していくのではないかと思います。あせったり「しっかり」とか励まし過ぎると逆効果ですよ。気がながにござー!

藤岡 佐規子先生  
 ふじおか さきこ



1946年、京都女子専門学校保育科を卒業後、光沢寺保育園に入職。以後一貫して乳児保育に従事。現在、同園副園長。北九州市保育所連盟会長、国際婦人開発基金(ユニフェム)日本国内委員会北九州地域等委員会会長、財団法人アジア女性交流研究フォーラム理事、同児童福祉施設等第三者評価委員会、同社会福祉審議会各委員等(以上、現職)。この間、全国社会福祉協議会全国保育士会会長、福岡県保育協議会副会長、同保育士会会長、福岡県立大学・西南女学院短期大学非常勤講師を務める。

- 仲間達への定期便(西部読売開発出版部)
- 育てよう、いきいきっ子(共著、蒼丘書林)
- 子どもと環境(共著、蒼丘書林)
- 感性を育てる保育実践領域環境と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域人間関係と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域言葉と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 保育園の窓辺から…(蒼丘書林)